

令和4年度 山口大学教育学部附属光学園（光小・中学校）学校評価書 （校長 江藤弘康）

1 学校教育目標	
<p>【教育目標】 広い視野をもち、未来の社会をたくましく切り拓く人間の育成</p> <p>【目指す子ども像】 本質を見極めようとする子(ねばり強く考える子) 多様性を尊重し、協働できる子(自他を大切にできる子) 社会との絆を深める子(地域に愛される子)</p>	

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）	
<p>(1) 学力の向上 GIGAスクール構想を基盤にした小中9年間を貫く「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を積み重ねるとともに、光学園の研究主題である「well-being につながる学び」の姿を、家庭学習の改善とあわせて具現化することが課題である。</p> <p>(2) 心の教育の推進 今年度も道徳科の授業や挨拶を通した心の教育に力を入れている。日常の学校生活や公共の場での態度の価値付けを通した集団づくり、思いやりのある言動や情報モラル等の自他を大切にできる人権意識の向上が課題である。</p> <p>(3) 健康・安全と体力の向上 望ましい生活習慣の確立や交通安全の意識の向上、適度な運動による体力の向上が課題である。家庭への啓発の強化や大学や地域人材の活用等、家庭と連携した取組を一層推進していくことが課題である。</p>	<p>(4) 学部・保護者・地域との連携の強化 学部との連携については、オンラインの活用等により授業づくりの研究や教育実習等を進めている。GIGAスクール構想を基盤にした一層の充実が課題である。 メール配信・web による保護者への情報発信に努めている。PTA 活動や参観日等の機会を通して保護者同士のつながりを構築していくことが課題である。 地域連携では、附属光学園ならではの地域連携のあり方や、学校運営への児童生徒の参画についての取組の実現が課題である。</p> <p>(5) 業務改善の推進 研究校・実習校としての使命に加えて、感染症対応やGIGAスクール構想の推進に伴う教職員の業務負担が増加している。小中一貫教育校だからこそできる業務改善を行うとともに、山口大学、PTA、おやじの会等にも協力を求め、教職員のライフワークバランスを大切にしたい上で、光学園の子どもたちのよりよい成長につなげる業務改善が課題である。</p>

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域社会の一員として子どもが自らの学びを創造する中で、思考・判断・表現できる小中一貫教育の推進。【知性】 ○ 地域社会の一員としての自覚を育てるとともに、受容し共感することのできる温かい心の醸成。【自己】 ○ 地域社会の一員として、地域とともに学校課題の改善に邁進できる開かれた学校づくり。【共生】

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	課題解決に向けての取組(具体的方策)	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析	取組状況に関する意見・要望等	評価
学力の向上	思考力・判断力・表現力を確かなものにする学びの推進(情報端末活用)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的・対話的で深い学びについての実践の充実と情報発信 ○ 子どもに育む資質・能力に特化したカリキュラムの深化充実 ○ 個の特性に応じた指導改善 	子ども・保護者アンケート(授業関連)の肯定的な回答 4(95%以上), 3(90%以上), 2(85%以上), 1(85%未満)				
	自ら学び続けることのできる家庭学習の在り方についての提案と実践(情報端末活用)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の課題に応じた家庭学習方法の実践と検証 ○ 子どもに育む資質・能力に応じた家庭学習方法の実践と検証 	保護者アンケート(家庭学習・学力)の肯定的な回答 4(80%以上), 3(75%以上), 2(70%以上), 1(70%未満)				
心の教育の推進	自他を大切にできる受容的な集団の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳科の授業づくりを通した、子どもの変容の見取りと評価 ○ 学校行事への主体的な取組を通した集団づくり 	子ども・保護者・教職員アンケート(道徳科)の肯定的な回答 4(95%以上), 3(90%以上), 2(85%以上), 1(85%未満)				
	集団意識を基盤とし、自治と誇りを基軸としたマナーアップ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校中や公共の場での態度の価値付けを通した、望ましい集団づくり ○ 子どもの自治的な工夫・改善を通した主体的な取組の推進 	子ども・保護者・教職員アンケート(規範)の肯定的な回答 4(90%以上), 3(85%以上), 2(80%以上), 1(80%未満)				
健康・安全と体力の向上	自らの生活の課題を意識し、工夫しようとする意欲・態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の実態に即した、早寝・早起き・朝ご飯の啓発、食育指導、保健指導、ネット利用の指導を通した、健康的な生活習慣や態度の育成 	子ども・保護者アンケート(生活)の肯定的な回答 4(80%以上), 3(75%以上), 2(70%以上), 1(70%未満)				
	安全に楽しく運動を楽しめる資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動場を捉えた具体的な安全指導の充実 ○ 体育科の授業や家庭生活での実践を通した体力の向上 	子ども・保護者アンケート(生活)の肯定的な回答 4(80%以上), 3(75%以上), 2(70%以上), 1(70%未満)				
学部・保護者・地域との連携	学校と学部との連携を密にした教育研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9年間を見通した定期的な情報提供及び教育実践研究サイクルの構築 	教職員アンケート(学部連携)の肯定的な回答 4(90%以上), 3(85%以上), 2(80%以上), 1(80%未満)				
	学校と保護者、保護者と保護者のネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校webページを活用した各種情報発信の充実 ○ 非常変災等、学校の危機管理に関する共通理解と訓練の充実 ○ PTA、おやじの会への参加を通した保護者同士の絆づくり 	保護者アンケート(PTA等)の肯定的な回答 4(85%以上), 3(80%以上), 2(75%以上), 1(75%未満)				
	附属学校の特性を生かした地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会、子どもとの熟議を通したCS(コミュニティ・スクール)の充実 ○ 附属学校の特性を生かしたCS(コミュニティ・スクール)機能の強化 	4(子どもが参画した地域との取組), 3(子どもが参画した学校運営協議会との活動), 2(学校運営協議会の提案による新たな取組), 1(学校運営協議会での熟議)				
業務改善	業務の見直しと効率化を通した働き方の改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 限られた時間内での子どもと向き合う時間の質の向上 ○ 小中の同僚性の向上、業務や学校行事の見直しによる業務の効率化 	時間外労働時間の平均 4(42時間未満), 3(47時間未満), 2(52時間未満), 1(52時間以上)				

5 学校評価の総括（取組の成果・次年度への改善策）
<p>〈取組の成果〉</p> <p>〈次年度への改善策〉</p>